

碧水園能

喜多流公演

能
通小町 かよいごまち

佐々木多門

狂言
富士松 ふじまつ

石田 幸雄

令和5年2月5日(日)開演午後1時30分

(開場午後0時30分)

白石市古典芸能伝承の館 碧水園能楽堂
主催 碧水園能に親しむ会実行委員会
後援 白石市、白石市教育委員会

(公)白石市文化体育振興財団
白石商工会議所、白石市文化協会

お問い合わせ先 電話〇二三四―二五―七九四九

住所宮城県白石市南町二丁目二番二二号

入場料……………正面席 6,500円

正面補助席、臨正面指定席 6,000円

臨正面補助席 5,500円

自由席 5,000円

学生席 3,500円

(中学生以下無料、先着10名)

チケット取扱所……………

碧水園、中央公民館、白石喜多会会員

※令和4年12月3日(土) 午前8時30分発売開始

電話受付 午前9時開始

〔(写真)喜多 実師所演〕

碧水園能 喜多流公演 番組

解説 塩津圭介

開演 一・三〇

仕舞 卷絹 佐藤陽

地謡 佐藤寛泰
内田成信
友枝雄人

仕舞 大江山 大島輝久

栗谷浩之

狂言 富士松 太郎冠者 石田幸雄

主人 中村修一

後見 破石澄元

休憩十分

一・二一〇
一・二二〇
一・二三〇

ツレ・小野小町の霊 友枝真也

シテ・深草少将の霊 佐々木多門

能 通小町 登

大鼓 大倉慶乃助
小鼓 住駒充彦

笛 栗林祐輔

後見 塩津哲生
栗谷浩之

地謡 塩津圭介
大島輝久
内田成信
佐藤寛泰
狩野了一
友枝雄人

春にふさわしく、和歌や物語にちなむ番組といたしました。

仕舞 卷絹 (まきぎぬ)
天神が乗り移った巫女は、歌を神に手向けた男の罪を救い、和歌の功德を舞い舞う。

仕舞 大江山 (おおえやま)

大江山に住まう鬼、酒呑童子。山伏一行を客として酒宴をひらき、舞い遊んでもてなす一場面。

狂言 富士松 (ふじまつ)

無断で旅に出た太郎冠者を主人が叱りに来るが、富士詣でをしてきたと詫言ると許す。取ってきた富士松を要求する主人に、太郎冠者は酒を振舞い機嫌をとるが、主人は、連歌にうまく付けられなければ松を持っていくと言いつつ。次々と歌を眺みかける主人に、見事に応酬する太郎冠者が……。中世の連歌の流行を背景にした狂言です。

能 通小町 (かよいまち)

八瀬の里で夏の修行をする僧に毎日本の寒を届ける女がいて、僧が名を尋ねると「小野とは言わじ」と消え去る。僧はさては小町の霊であったかと回向をしようと、深草少将の霊が現れ、小町の成仏を妨げる。

恋をあざむかれ、「さらば煩惱の犬となって、打たれると離れじ」と小町へ執心を残す深草少将。逃れて成仏しようとする小野小町と葛藤するが、僧が百夜通いの機を所望すると、少将はそれを再現して見せ、やがて小町の霊とともに成仏するのであった。

石田幸雄 (和泉流狂言方)

一九四九年生。野村万作に師事。万作一門の重鎮として活躍し、二〇〇六年芸術祭大賞受賞。二〇一一年朝世寿夫記念法政大学能楽賞を受賞。日本能楽会会員 (重要無形文化財継承者指定)

佐々木多門

一九七三年生。喜多流職分。佐々木宗生職分の長男。塩津哲生職分に師事。喜多流の伝統が続く白石の地。平成八年より碧水園の公演を勤めている。日本能楽会会員 (重要無形文化財継承者指定)



終演予定 三・四〇頃